

公立大学法人島根県立大学の平成30年度に係る業務実績に関する評価のポイント

## 1 中期目標項目別評価の概要

中期目標項目	評 定 平 均 値	AA	A	B	C	D
		特筆すべき進捗状況	順調に進んでいる	概ね順調	やや遅れている	大幅な改善が必要
		~4.3	4.2~3.5	3.4~2.7	2.6~1.9	1.8~
I 社会情勢の変化に的確に対応した大学づくり	4.50	AA				
II 大学の教育研究等の質の向上	5段階による評価でなく、進捗状況・成果を総合的に評価する。					
III 自主的、自律的な組織・運営体制の確立	4.08		A			
IV 評価制度の充実及び情報公開の推進	4.14		A			
V その他業務運営に関する重要事項	3.94		A			

評点平均値：年度計画各項目を5点満点で評定し、中期目標の大項目ごとに平均値を算出したもの。

評定：評点平均値に応じて、AA、A、B、C、Dの5段階で評価。

## 2. 中期目標項目別評価内容

### I 社会情勢の変化に的確に対応した大学づくり

評 価	AA	特筆すべき進捗状況にある	評定平均 4.50
評価にあたって考慮した事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全学               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 島根県が策定した第3期中期目標に対応する中期計画を、大学改革本部における検討、理事会での審議等を経て作成し、平成31年3月8日に県の認可を受けた。(No. 1-1)</li> </ul> </li> <li>○ 浜田キャンパス               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域課題研究に取り組み、地域貢献を推進していくため、「しまね地域研究センター」(平成31年4月1日設置)の設置に向けた準備を行った。(No. 1-4)</li> <li>・ 「総合政策学部」を国際系と地域系の2学部にも再編する基本方針を策定した。(No. 1-3)</li> </ul> </li> <li>○ 松江キャンパス               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成30年4月1日に新設された看護栄養学部、人間文化学部及び短期大学部は高い志願倍率を達成し計画通りのスタートを切ることができ、年度を通じた運営も円滑に実施することができた。ま (No. 1-6)</li> </ul> </li> </ul>		

## II 大学の教育研究等の質の向上

項目	計画の進捗状況及び成果
<p>高い知性と豊かな人間性を育み、社会に役立つ人材を輩出する大学</p>	<p>特筆すべき点・注目される点</p> <p><b>【アドミッション】</b></p> <p>○ 全学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オープンキャンパス、高校での大学説明会、学生による母校（高校）訪問や様々な広報媒体を組み合わせた広報といった県内外への戦略的な広報を重点的に行った結果、全学において入学定員充足率105.5%を達成するとともに、新学部である人間文化学部では4倍を超える志願倍率（昨年度3倍）であった。（中期計画数値目標, NO. 3）</li> </ul> <p>○ 浜田キャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学見学について、昨年度を上回る306名（昨年度284名）を受け入れるとともに、受験生のニーズに応える自己推薦入試対策として「自己推薦入試受験体験」を開催するなど、積極的な入試広報に努めた。（No. 3-3）</li> </ul> <p><b>【キャリア】</b></p> <p>○ 全学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3キャンパスとも、昨年に引き続き高い就職率を維持した。（浜田97.4%、出雲100%、松江98.4%）（No. 9, 10, 35, 36, 37）</li> </ul> <p>○ 浜田キャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公務員受験対策である「公僕学舎」について、小論文・集団面接講座、公務職場研究ワークなど新たなプログラムを開設し、将来、行政職員となった時をイメージした、より実践的な試験対策を実施した。（No. 35）</li> <li>・ 学生の主体的なキャリア形成を目指し、大学が指定する各種資格の合格者に対する81件の資格取得助成を行った。（No. 39）</li> </ul> <p>○ 出雲キャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国家試験の合格率は看護師が96.5%（全国平均89.3%）、保健師が93.5%（81.8%）であり、助産師は100%を達成し、いずれも高水準の合格率だった。（中期計画数値目標）</li> <li>・ 卒業生や修了生の離職防止のための相談窓口設置や、卒業生や修了生から在校生への就職勧奨等の、積極的なPRを行った。（No. 37-2）</li> </ul>

<p>高い知性と豊かな人間性を育み、社会に役立つ人材を輩出する大学</p>	<p>特筆すべき点・注目される点</p>	<p>○ 松江キャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 栄養士資格取得 100%、保育士資格及び幼稚園教諭免許の併有率 96% であり、いずれも目標の 90%を達成した。（短期大学部 中期計画数値目標）</li> <li>・ 総合文化学科で平成 30 年度よりインターンシップを単位化、20 名が受講し、社会や企業等に対する理解を深める取組を実施した。（No. 35）</li> </ul> <p>【その他教育・学生支援に関する事項】</p> <p>○ 全学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学内奨学金について、受験生に対しては大学案内や選抜要項への記載、オープンキャンパスでの説明会で積極的に情報提供し、在学生に対しては年度当初のオリエンテーション等で広く周知した。（No. 40）</li> </ul> <p>○ 出雲キャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生が抱える様々な問題に対して気軽に相談ができるよう、チューター制を継続し、保健管理センターや関係部門と連携を図りながら支援を行った結果、保健室での学生相談数は H30 年度 4～5 月累計 183 名（H29 年度 4～5 月累計 112 名）と増加しており、環境整備が功を奏している。（No. 32-3）</li> </ul>
	<p>遅れている点・課題がある点</p>	<p>【FDの取組】</p> <p>○ 浜田キャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年に引き続き、学生アンケート回答率と教員フィードバック提出率が、出雲キャンパスや松江キャンパスと比較して低くなっている。スマートフォンで容易にアンケート回答できるようシステムを改修する、QRコードを学内に掲示するなどの新たな取組みのなかで、今後、新システムの操作方法などの利便性が高いことをいっそう学内に浸透させ、回答率や提出率を高められたい。（No. 25）</li> </ul>

高い知性と豊かな人間性を育み、社会に役立つ人材を輩出する大学

学生アンケート回答率(単位:%)

		H28	H29	H30
浜田	春学期	41.4	44.7	35
	秋学期	34.6	38.3	30.5
出雲	春学期	98.8	99.9	97.7
	秋学期	100	99.5	98.8
松江(短)	春学期	77	83.7	65.4
	秋学期	65.1	58.3	61.8
松江(四)	春学期	-	-	84.7
	秋学期	-	-	81

教員フィードバック提出率(単位:%)

		H28	H29	H30
浜田	春学期	55.1	62.2	31.8
	秋学期	53.2	61.4	46.7
出雲	春学期	100	100	100
	秋学期	100	100	100
松江(短)	春学期	54.5	63.6	70.2
	秋学期	56.7	78.1	38.6
松江(四)	春学期	-	-	84.6
	秋学期	-	-	44.8

FD・・・ファカルティ・ディベロップメント (Faculty Development)  
 教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みの総称

- ・ 県内就職率向上に向け、ジョブカフェしまね等と連携して、県内の企業・社会人と学生とが交流できる機会を設けた。参加した学生の満足度はかなり高いが、参加する学生の人数が少なかった。各機関において類似の企業見学等バスツアーが同時期に開催され、申込みが分散されていることから、いくつかのバスツアー等のイベントを集約する等により、効率化を図られたい (No. 36)

(参考)

- DEEP 石見バスツアー3社、11名
- ワークカフェ (企業編) 3回9社、27名
- ワークカフェ (公務編) 6回18団体、66名
- ナイトワークカフェ 2回9社、22名
- インターンシップフェア 12社、19名

地域に根ざし、地域に貢献する大学

特筆すべき点・注目される点

○ 全学

- ・ 「しまね地域マイスター」制度は、必修科目「しまね地域共生学入門」を始め、地域共生演習（ゼミ）の受講や卒業研究提出までは定期的な報告会の開催などを通じて、4年間かけて地域課題解決の実践力ある人材を育成する県立大学独自の制度である。平成30年度は本制度初めての卒業生となる4年次生8名が「しまね地域マイスター」の認定を受けることができ、地域の課題解決能力・実践力を持った地域に貢献する人材を輩出した。また、松江キャンパスの新学部においても本制度の運用を開始し、各キャンパスと調整し、COC+に向けた人材育成の体制を整えた。（No. 46）
- ・ 「しまね協働教育パートナーシップ推進協議会」を開催し、地域協働による人材育成研修会等の企画について協議を行った。さらに、新たな試みとして登録団体の魅力を紹介する学生向け冊子を作成し、キャリア教育等に活用した。また、登録団体対象の研修会やインターンシップフェア等を実施し、昨年以上に学生と登録団体との接点を拡大し、各校で取り組む地域志向型キャリア教育との連動が進展した。引き続き、絶えず変化する地域が抱える課題や県立大学に対する地域のニーズを敏感に察知した上で、地域貢献を重視した大学運営を期待する。（No. 54-2）

○ 浜田キャンパス

- ・ 自治体との共同研究は、浜田市5件、益田市4件を実施し、新たに島根あさひ社会復帰促進センターとの共同研究1件や島根県西部県民センター学生石見地域研究5件、島根県水産技術センター1件にも取り組んだ。（No. 54-3）

○ 出雲キャンパス

- ・ 出雲キャンパス公開講座を12講座（受講者数：延べ783名）実施した。また、出雲キャンパスサテライトキャンパスにおいて、市民を対象に、前期後期で計26講座（受講者数：延べ456名）実施した。（No. 58-2）

○ 松江キャンパス

- ・ 松江商業高校、湖南中学校、乃木小学校、忌部小学校、忌部幼稚園や幼保園のぎと連携協定を結び、初等・中等教育側、大学教育側双方にとって、教育的成果のある事業を継続実施し、教育機関連携を固めた。（No. 57-3）
- ・ おはなしレストラン・ライブラリーについては、児童に対する読み聞

	<p>かせイベントを開催し、また、一般の方が利用しやすいように行事ごとに展示の変更を行い、絵本、紙芝居など蔵書の充実も計画的に行った。 (No. 59-2)</p>																																							
<p>地域に根ざし、地域に貢献する大学</p>	<p>遅れている点・課題がある点</p> <p>○ 浜田キャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>依然として県内入学率が他キャンパスと比較して低いこと、また、県内就職率が法人化後初めて2割を切った。当該卒業生の入学年次における県内入学生数が前年に比べ大幅に減少したことが原因と考えられ、県内入学率と県内就職率は相互に関連していることから、県内入学者数の確保等のさらなる取組が必要である。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="411 1173 1018 1554"> <caption>[入学者に占める県内者割合]</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th>H 2 9</th> <th>H 3 0</th> <th>H 3 1</th> </tr> <tr> <th>入試</th> <th>入試</th> <th>入試</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>浜田</td> <td>21.7</td> <td>24.3</td> <td>19.6</td> </tr> <tr> <td>出雲</td> <td>51.2</td> <td>61.5</td> <td>57.8</td> </tr> <tr> <td>松江(四)</td> <td>—</td> <td>60.7</td> <td>49.2</td> </tr> <tr> <td>松江(短)</td> <td>69.1</td> <td>72.1</td> <td>77.4</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="411 1615 1046 1888"> <caption>[県内就職率(就職希望者に占める県内就職者)]</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H 2 8</th> <th>H 2 9</th> <th>H 3 0</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>浜田</td> <td>23.0</td> <td>31.8</td> <td>19.6</td> </tr> <tr> <td>出雲</td> <td>51.2</td> <td>49.4</td> <td>48.5</td> </tr> <tr> <td>松江(短)</td> <td>69.7</td> <td>69.1</td> <td>68.5</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H 2 9	H 3 0	H 3 1	入試	入試	入試	浜田	21.7	24.3	19.6	出雲	51.2	61.5	57.8	松江(四)	—	60.7	49.2	松江(短)	69.1	72.1	77.4	区分	H 2 8	H 2 9	H 3 0	浜田	23.0	31.8	19.6	出雲	51.2	49.4	48.5	松江(短)	69.7	69.1	68.5
区分	H 2 9		H 3 0	H 3 1																																				
	入試	入試	入試																																					
浜田	21.7	24.3	19.6																																					
出雲	51.2	61.5	57.8																																					
松江(四)	—	60.7	49.2																																					
松江(短)	69.1	72.1	77.4																																					
区分	H 2 8	H 2 9	H 3 0																																					
浜田	23.0	31.8	19.6																																					
出雲	51.2	49.4	48.5																																					
松江(短)	69.7	69.1	68.5																																					

<p>北東アジアをはじめとする国際的な教育研究を推進する大学</p>	<p>特筆すべき点・注目される点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>全学</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外留学者数、海外研修、内閣府海外派遣事業等の参加者数について、年間 191 人と前年度（165 人）及び今年度の目標（180 人）を上回り、国際交流推進体制の整備の効果が現れてきた。（中期計画数値目標）</li> <li>・ 全学合同事業のグローバルドリームハントや外務省の対日理解促進交流プログラム「カケハシプロジェクト」の派遣学生を全学で募集し、合同事前研修にて派遣学生相互の結束を図るなど、3 キャンパスの連携体制を強化した。（No. 65）</li> </ul> </li>   <li>○ <b>浜田キャンパス</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「異文化理解研修ハンドブック」を作成し、1、2 年生全員に配布し、より多くの学生が海外短期研修プログラムに参加できるよう周知した。（No. 61-1）</li> </ul> </li>   <li>○ <b>出雲キャンパス</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前年度研修参加者の研修成果を共有するための報告会を開催した。その際に奨学金等の支援制度を周知するとともに、研修前後のオリエンテーション、報告会等を通じ、参加の意義を浸透させ、平成 30 年度の異文化研修参加者は、43 名へ増加（平成 29 年度 38 名）するなど、海外交流事業参加者の実績増に繋がった。（No. 61-2）</li> </ul> </li>   <li>○ <b>松江キャンパス</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業での海外短期研修や単位取得に関わらない自主参加の研修への参加促進を行った結果、サマープログラム（授業）に 25 名、台中科技大学短期研修（課外）に 1 名、県主催の海外理解講座（課外）に 3 名が参加した。これらの参加実績を学内報告会、ポスター掲示やホームページの活用により学内外に周知した。（No. 61-3）</li> </ul> </li> </ul>
------------------------------------	----------------------	---

### Ⅲ 自主的、自律的な組織・運営体制の確立

評 価	A	順調に進んでいる	評定平均 4.08																											
評価にあたって 考慮した事項	<p>○ 全学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>科学研究費や受託研究、民間団体等助成金など、外部の研究資金獲得の取組について、科学研究費獲得のための研修会や学内に科学研究費アドバイザーを配置し、教員の相談体制を整備するなど取組を進めたことにより、科学研究費取組をはじめ、件数が年々増加している。また、浜田キャンパスにおいては、資金総額の目標値を下回りはしたが、3キャンパス合計で資金総額の目標値を達成することができた。研究領域の性質や特性にもよるところが大きく、一概に獲得資金の総額で成果を判断することはできないが、大学の安定的な運営に、自己財源の確保は欠かせないため、さらなる取組みに期待したい。(No. 52-2、中期計画数値目標)</li> </ul> <p>【科研費実施（新規＋継続）件数】</p> <p>H25：7件、H26：10件、H27：12件、H28：14件、 H29：16件、H30：22件</p> <p>【H30年度外部資金の獲得者割合及び金額の目標値】</p> <table border="1" data-bbox="466 1420 1010 1603"> <thead> <tr> <th></th> <th>人数割合</th> <th>資金総額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>浜田</td> <td>35%以上</td> <td>26,000,000円以上</td> </tr> <tr> <td>出雲</td> <td>20%以上</td> <td>13,000,000円以上</td> </tr> <tr> <td>松江</td> <td>14%以上</td> <td>4,000,000円以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>【H30年度外部資金の獲得者割合及び金額の実績値】</p> <table border="1" data-bbox="466 1731 1072 1939"> <thead> <tr> <th></th> <th>件数／人数比</th> <th>資金総額(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>浜田</td> <td>64%</td> <td>19,173</td> </tr> <tr> <td>出雲</td> <td>55%</td> <td>20,354</td> </tr> <tr> <td>松江</td> <td>26%</td> <td>6,850</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>50%</td> <td>46,377</td> </tr> </tbody> </table>				人数割合	資金総額	浜田	35%以上	26,000,000円以上	出雲	20%以上	13,000,000円以上	松江	14%以上	4,000,000円以上		件数／人数比	資金総額(千円)	浜田	64%	19,173	出雲	55%	20,354	松江	26%	6,850	計	50%	46,377
		人数割合	資金総額																											
浜田	35%以上	26,000,000円以上																												
出雲	20%以上	13,000,000円以上																												
松江	14%以上	4,000,000円以上																												
	件数／人数比	資金総額(千円)																												
浜田	64%	19,173																												
出雲	55%	20,354																												
松江	26%	6,850																												
計	50%	46,377																												

#### IV 評価制度の充実及び情報公開の推進

評価	A	順調に進んでいる	評価平均 4.14
評価にあたって考慮した事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全学               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 従来、紙による成績通知を行っていたが、「学生情報システム」による通知に変更し、学生保護者も閲覧できるようにしたことで、成績閲覧や大学から保護者に様々な情報提供を行うことができた。(No. 84)</li> <li>・ 自己点検や評価の責任者として新たに学長代行を設置するなど、認証評価で重視される内部質保証について、既存の組織体制を強化した。(No. 83-2)</li> </ul> </li> </ul>		

#### V その他業務運営に関する重要事項

評価	A	順調に進んでいる	評価平均 3.94
評価にあたって考慮した事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全学               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティア参加者数について、年間 700 人以上をめざし、ボランティア保険の加入者は全キャンパス合計 1,056 人であった。(中期計画数値目標)</li> </ul> </li> <li>○ 出雲キャンパス・浜田キャンパス               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ キャリア授業の中でOB・OGを招き、キャリア形成・就職活動に関する講演会の開催や、就職活動中の学生相談会を実施するなど、卒業生と協力・交流してより実践的なキャリア教育を実施した。(No. 43-1)</li> </ul> </li> </ul>		

### 3. 平成29年度実績に係る今後の取組が期待される事項

平成29年度実績評価で遅れている点とされた事項

項 目	対 応
FDの取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ H29年度の授業公開・FD連絡会の成果を踏まえ、授業公開(全専任教員による全授業を対象、1か月間)を実施した。また、学内体制におけるFD活動のあり方や授業公開における学外第三者意見聴取の取り組みについて、新体制となった松江キャンパス全体の進め方を継続検討した。</li> <li>・ 各キャンパスにおいて、春・秋学期に学部生全員を対象とした授業アンケート、専任教員によるフィードバック、FD年報の作成を実施した。容易に回答できるようシステム改修をするなど授業アンケートやフィードバックの回収に注力した結果、松江キャンパスでは、授業アンケート回収率・フィードバック提出率ともに前年度を上回った。出雲キャンパスでは、秋学期のアンケート回答率を除き、前年度を上回る回収・提出があった。</li> </ul>
県内入学率向上の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各キャンパスで新生を対象に志願動向調査を実施し、進路決定プロセス、情報源、相談相手、入学理由等様々な視点で志願動向の調査を行い、学内に公開した。</li> <li>・ 松江キャンパス新学部について、新たに「戦略的広報推進チーム」を立ち上げ、高校生がアクセスしやすいホームページの工夫、興味を持って見ることができるコンテンツの作成など、ホームページの充実を図った。</li> <li>・ 本学主催で島根県立大学説明会を県内高校実施し、PRを行った。</li> <li>・ 各キャンパスにおいて、母校訪問プロジェクトを実施し、学生の母校への広報活動を行った。また、訪問に先立ちPRすべき内容を学生と大学で共有、訪問後に報告書の提出を大学事務局に義務づけるなど徹底した取組を行った。</li> </ul>
国際交流事業参加者増への取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前年度研修参加者の学修成果を共有するための報告会を開催した。その際に奨学金等の支援制度を周知するとともに、研修前後のオリエンテーション、報告会等を通じ、参加の意義を浸透させ、平成30年度の異文化研修参加者は、43名へ増加(平成29年度38名)した。</li> <li>・ 「異文化理解研修ハンドブック」を作成し、1、2年生全員に配布し、より多くの学生が海外短期研修プログラムに参加できるよう周知した。</li> <li>・ 5名の学生が英語で卒業論文を執筆し、TOEIC730点以上の学生を3</li> </ul>

	<p>名、英検準1級の学生を1名、TOEFL iBT61点以上の学生を1名など、国際的に活躍できるための基礎力のある学生を輩出した。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 授業での海外短期研修や単位取得に関わらない自主参加の研修への参加促進を行った結果、サマープログラム（授業）に25名台中科技大学短期研修（課外）に1名、県主催の海外理解講座（課外）に3名が参加し、これらの参加実績を学内報告会、ポスター掲示やホームページの活用により学内外に周知した。</li><li>・ 海外留学者数、海外研修、内閣府海外派遣事業等の参加者数について、年間191人と前年度（165人）及び今年度の目標（180人）を上回り、国際交流推進体制の整備の効果が現れてきた。</li></ul>
--	--